

第3回 学校運営協議会 議事録

実施日：令和6年2月22日（木）

時間：15：30～16：45

場所：六郷高等学校会議室

1 出席者 ※敬称略

佐藤 良一	六郷高校同窓会会長（地域代表）
栗林 守	美郷町教育委員会教育長
後藤 智之	教育振興会会長（外郭団体代表）
熊谷 尚輝	P T A会長（保護者代表）
鈴木 正洋	美郷の話題編集・発行（地元メディア代表）
藤岡 誠人	町活性化団体（地元N P O団体代表）
伊藤 哲	校長

2 全体会 I

(1) 学校運営協議会会長挨拶

(2) 校長挨拶

3 協議

学校評価を基にした今年度の振り返り（教頭）

保護者及び生徒の学校評価アンケートから概要を説明

「教育方針」、「地域連携」、「授業理解」、「いじめ対応」、「もっと本校に力を入れてほしいこと」の5点について

4 全体会 II 司会：総務主任

(1) 意見交換（教頭の説明を踏まえて）

熊谷 尚輝 委員より

アンケートに整容指導が厳しいとある。先生方に話を聞いていただければ、校則や整容への生徒の不満も和らぐのではないだろうか。全てを受け入れてもらえないのは当然あるものの、歩み寄っていただければ、生徒たちもより楽しく学校生活を送れるのではないだろうか。アンケートで「自転車の交通マナーが悪い」とあるが、保護者として注意喚起をよりしていかなければと感じている。

また、いじめ対応においても両方に耳を傾けていただいた上で対応いただきたい。個別の事情が難しいことは察している。会報の種類について職員のアンケートで触れているがそんなに多かったのだろうか。

教頭より

職員については、様々な場面で出される刊行物がありすぎて負担が大きいという意見である。自転車のマナーについては、ヘルメット着用義務に際してのアンバサダー的役割を大仙警察署の依頼で自転車競技部に担ってもらう予定である。いじめについては、発生理由は様々あるだろうが、法的に見た場合、被害を訴えた時点でいじめとして対応することになる。被害者と加害者の両方に法に則って対応している。それは被害者だけではなく、加害者を守ることもつながる。そこからスタートだと考えている。

校長より

本校ではいじめ対応において、当事者が話をした内容に基づいて指導をしている。年度当初に生徒に対するいじめの研修を行っていたが、いじめの定義について生徒の理解が不十分であったと思う。今後も継続して、いじめの理解に向けた取組を行っていききたい。

藤岡 誠人 委員より

アンケートの質問13のいじめに関する回答で全否定的に考えている生徒が若干いるが、これは加害者、被害者いずれの立場で回答しているか把握しているのか。

校長より

どちらの立場かはわからないが、どの生徒かは特定できる。何らかの不満を抱えていると思う。これまでの指導への不満と受け止めている。今後も不満解消に向けて努めていく。

佐藤 良一 委員より

自転車のマナーについて改善に向けて生徒たちは様々な意見出してくれるだろう。中には無理なことも含まれるだろう。しかし、意見を出し合うというプロセスが大切である。また、公共心を向上させるよい契機になるかもしれない。

熊谷 尚輝 委員より

自動販売機について、夏の暑さ対策や今年になってからの故障を踏まえると、もう1台設置することはできないだろうか。災害対策という観点でも考えることは有意義である。

校長より

自動販売機の追加設置は可能だと思う。前向きに検討したい。

佐藤 良一 委員より

手続きも複雑ではないと思うのでできるのではないだろうか。校内の別の場所に設置してもよいと考える。

栗林 守 委員より

アンケートの調査方法はどのようにしているか。毎年同じ質問をすることで経年変化を見る場合もあるだろうか、この点をどのようにしているのか伺いたい。

教頭より

いじめと不登校の項目を今回は分けたが、昨年と同じ質問でアンケートを行った。昨年までは保護者と教員だけだったが、今年は新たに生徒のアンケートを保護者アンケートに準じる内容で行った。保護者、生徒、職員全員から回答してもらうという点で実施したので google フォームを活用して行った。回答者を特定しようと思えばできるが、今回はアンケートとして回答者を特定せずに集計した。

栗林 守 委員より

進路に対応した学習や統一した整容指導という点について生徒や保護者の意識は高いと考える。学校として、これらに対してどのように対応するかを伺いたい。また、基本的な生活習慣とは具体的にはどういう意味か、併せて伺いたい。

教頭より

進路に対応した学習とは、就職の場合は、義務教育段階の内容が大切である。もちろんハイレベルな内容も必要である。主体的な生き方や学習し続けていく態度の育成の契機に ICT の活用があると考えます。基本的な生活習慣とは、提出物の期限を守る、時間を守る、コミュニケーションを大切にすることなどである。

校長より

主体的な学びに向けた新しい取組について、リクルート社のスタディサプリの活用を一案として提案したい。ちなみに県内では 20 校が活用している。他校では情報が大学入学共通テストに課されることから、スタディサプリアを 3 年生に導入する学校もある。本校では朝学習での活用などを検討している。

鈴木 正洋 委員より

スタディサプリアの費用は個人負担になるのか。

校長より

私案だが、町からの助成金をここに活用できないか考えている。同時に各学年の集金計画や校納金の在り方を見直し、各学年のPTAにも諮っていきたいと考えている。検討中のものは、豊富なコンテンツだけではなく、模擬試験2回分もついている。いつでも、どこでも使いやすい内容となっているので、まずは取り組んでみたい。このツールは上位層を伸ばしていくための教材や下位層の学び直しとしても使っていきたい。

鈴木 正洋 委員より

学力の層が幅広いとなれば、こうしたツールも有効と考える。

佐藤 良一 委員より

予算の見直しが行われているということだが、町のバスを活用するのはどうだろうか。積極的に申し出た方がよいのではないだろうか。

栗林 守 委員より

以前も相談はあったが、バスの先約があり融通できなかった。ただ、利用目的も限定され、無制限とはいかないが、何かあれば相談いただきたい。

校長より

今年度は1年生の農業体験学習で大変お世話になった。感謝申し上げたい。

藤岡 誠人 委員より

スタディサプリの費用についてだが、この金額で子どもたちが積極的に学習に臨むのなら安いと考える。

熊谷 尚輝 委員より

集金の見直しが図られるのであればよい。やるか、やらないかは本人次第だが、導入には問題がないと思う。

校長より

スタディサプリについては、やらない生徒をそのままにせず、必ず取り組ませる。分かったという体験を生徒には味わってほしい。

栗林 守 委員より

すでにお試しで実践しているのか。

校長より

冬休み中に職員もやってみた。1，2年生の生徒で試行してみたが、やってみたいという意見がほとんどであった。意見は好意的であった。特に、2年生では前向きな意見が多く見られた。六郷高校の新しい学習スタイルとして本校の魅力にしていきたいと考える。

鈴木 正洋 委員より

タブレットやスマートフォンは全員持っているのか。

校長より

タブレットは学校の備品を活用したい。スマートフォンは家庭での通信環境に差があるかもしれないので、学校での活用を中心とする。

栗林 守 委員より

生徒に預けたままではなく、先生方も教科指導方法の改善に活用していくことを期待したい。

佐藤 良一 委員より

学習成果を向上させる上で期待ができる。

教頭より

この事業の趣旨をご理解いただいた上で、改めて推進させていくことをご承認いただきたい。

(委員による承認)

熊谷 尚輝 委員より

職員のアンケートで「心が折れそう。職員間の連携が大切である。」という記載があった。非常に同感である。先生方は子どもたちにとって身近な大人である。だからこそ元気に頑張ってもらいたい。そのために保護者として協力できることは何でもやりたいと思う。遠慮なく相談してほしい。

## (2) その他

後藤 智之 委員より

アンケートに韓国語を学びたいとあったが、そうした学習機会を町の援助を受けながら提供できると思う。国際教養大学などの協力を仰ぐのも一つだと思う。

司会より

以前、秋田県の国際交流員を活用した外国語と異文化に関する授業を実施したことがあった。コロナ禍で事業を見送っていたが、機会をみて実施したい。

鈴木 正洋 委員より

タイの学校と福祉科で文通交流したことも以前あったと記憶している。

藤岡 誠人 委員より

タイスパイシーの従業員は町内在住だろうか。知人で台湾から嫁いできた人がいるので、学校での活用も考えてもいいと思う。

### (3) 学校運営協議会副会長挨拶

学校評価アンケートによる様々な意見を真摯に学校として受け止めてくれているのがうれしい。また、その意見へのスピーディな対応もうれしい。学校の周りには本協議会を含めて多くの応援団がいるので大いに活用してほしい。